

# サザエの資源増殖に関する調査

小島 博・谷本尚則・浜崎 晃

サザエはアワビ類と共に重要な磯根資源である。これまで、生殖腺の発達の季節変化と成熟サイズの調査<sup>1)</sup>放流試験など実施した。<sup>2)</sup>

しかし、天然産サザエの生活史に関する知見は乏しく、資源増殖上の問題点について明らかでない部分が多い。本年度は前年度放流サザエの追跡調査並びに若齢サザエの生活域について調査したので、その概要を報告する。

## 1 方 法

前年、由岐町阿部へ放流したサザエの追跡調査を放流7カ月後の58年6月23日に行った。放流4カ月後の調査で広範囲に移動したと推定されたので、放流地点を中心としてスキューバ潜水による自由採集を試みた。

天然産サザエの調査は由岐町阿部、日和佐町友垣及び牟岐町砂美、権現、水落の各地先で行った。阿部では58年9月14日、59年1月18日、3月8日及び3月21日に調査した。日和佐町友垣では9月5日、3月1日及び3月22日に、牟岐町砂美では11月25日、同町権現では11月30日、同町水落では3月23日にそれぞれ調査した。

調査方法はスキューバ潜水による枠調査又は自由採集とした。枠調査では岸から沖へ100mロープを張り、

表1 標識放流サザエの殻高組成

殻高(mm)	阿 部	友 垣
40～	1	3
45～	43	52
50～	92	81
55～	68	45
60～	31	31
65～	26	7
70～	16	4
75～	24	6
80～	27	18
85～	15	13
90～	4	5
95～	1	1

距岸0、25、50、75及び100mの地点で1×1m枠を用いて採集した。

由岐町阿部及び日和佐町友垣の各地先へサザエを標識放流した。標識サザエの殻高組成は表1に示したとおりである。阿部地先へは59年1月18日に殻高44～98mmのサザエ348個、友垣地先へは59年3月1日に殻高43～98mmのサザエ266個を放流した。標識は直径10mmのプラスチック製円盤に番号を刻印したもので、貝殻開口部を電気ドリルで穿孔し、金属製割ピンで固定した。

## 2 結 果

阿部地先での前年放流サザエの追跡調査では、殻高20～28mmのサザエ4個を採集したが、いずれも天然産のもとと判断された。また、殻高16～33mmのサザエ貝殻36個を採集したがいずれも天然産と判断された。放流サザエは再捕されなかった。

若齢サザエの採集結果を由岐町阿部、日和佐町及び牟岐町の各地先について、それぞれ表2～4に示した。殻高5～9mmのサザエの採集数は少ないが、阿部では6月下旬、3月上～下旬、牟岐町では11月下旬に採

表2 若齢サザエの殻高組成(阿部)

殻高(mm) \ 月日	6月 23日	9月 14日	1月 18日	3月 8日	3月 21日
5～	1				
7～				1	2
9～					
11～		2			
13～		1			
15～		2			1
17～					1
19～	2				2
21～			1		3
23～	1			1	7
25～	1		1		4
27～	1		1		1
29～					
31～					1
33～					1
35～					

表3 若齡サザエの殻高組成(友垣)

殻高(mm) \ 月日	9月5日	3月1日	3月22日
11~		1	
13~			
15~			
17~			
19~			
21~			
23~		1	
25~			
27~			
29~	1		1
31~			1
33~		1	3
35~			1

表4 若齡サザエの殻高組成(牟岐町)

場所 \ 月日	砂美 11月25日	権現 11月30日	水落 3月23日
5~	1		
7~			
9~			
11~			2
13~			
15~			
17~			
19~		1	2
21~			1

表5 若齡サザエの出現域の主要海藻類

場所	調査月日	水深(m)	主要海藻 (g/m <sup>2</sup> )	サザエ殻高(mm)
牟岐町 砂美	11.25	0.5	サンゴモ科(1192), テングサ属(60)	5.6
日和佐町 友垣	3.1	0.5	サンゴモ科(468)	11.7, 23.1
		1.0	ホンダワラ(2634), ウミウチワ(135)	34.9
牟岐町 水落	3.23	0.0	ヒジキ(2452)	12.3, 12.8, 19.4
		1.0	オオバモク(1704), アラメ(1099)	22.1
由岐町 阿部	3.8	2.0	オオバモク(750), テングサ属(258)	19.7
		1.0	アラメ(2046), オオバモク(700)	23.5
		3.0	フクロノリ(317), サンゴモ科(249)	7.4

集された。また、殻高11~21mmのサザエは阿部では6, 9, 3月に、日和佐町では3月に、牟岐町では11, 3月に採集された。殻高21~29mmのサザエは阿部では6, 1, 3月に、日和佐町では9, 3月に、牟岐町では3月に採集された。

枠調査による若齡サザエ出現枠の水深と主な海藻類を表5に示した。殻高30mm以下の若齡サザエの出現数は0.5m以浅で多い傾向が窺える。枠調査での出現水深は0~3mであるが、他の調査では水深5m付近からも採集された。出現地点の主な海藻としてはサンゴモ科、ヒジキなどで、アラメ場での出現は少ない。

59年3月に日和佐町友垣で採集したサザエを殻高5mm間隔でまとめ、表6に示した。殻高10mm, 25~35mm及び50~75mmの3群に分けることができる。

阿部及び日和佐町地先へ放流した標識サザエの追跡調査は来年度に実施する。

### 3 考 察

殻高5~9mmの若齡サザエは春から秋にかけて採集されたが、これは産卵期が長期にわたることと一致する<sup>1)</sup>。また、若齡貝は波打ち際のサンゴモ科やヒジキ群落内での出現数が多く、初期生活期にこうした藻類の生育帯を利用しているものとして興味深い。

殻高30mm以上のサザエは波打ち際では発見できず、いずれもやや沖合いで採集された。殻高20~30mmの間に沖側へ移動することが考えられる。こうした大き

表 6 日和佐町友垣地先のサザエの殻高組成  
(3月1, 22日)

殻高 (mm)	採集数 (個)
10～	1
15～	
20～	1
25～	
30～	6
35～	1
40～	
45～	
50～	2
55～	3
60～	5
65～	2
70～	2

さのサザエはアラメ仮根の間、岩の狭い割れや小さな凹みなどを利用して。前年放流したサザエ種苗の追跡調査によって、成長、分散、移動、すみ場などを明らかにしようとしたが失敗した。

本県産サザエの成長の季節変化、年齢別年間成長量など不明な点が多い。こうしたことを調べるには殻高範囲の広いサザエに標識を付け、連続した調査が有効と考えられる。今年度放流した標識サザエの追跡調査に加えて小型サザエの放流追跡調査を続ける予定である。

#### 参考文献

- 1) 谷本尚則・中久喜昭・小島 博；徳島県南部海域におけるサザエの生態と資源保護について，徳島水試事報，200～216（1978）。
- 2) 中久喜昭・小島 博・谷本尚則；サザエ稚貝の放流試験，徳島水試事報（1984）。